

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p><b>よさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた課題に対して、まじめに取り組む。</li> <li>基礎基本の習得について繰り返し、学習する。</li> <li>平日の宿題は90%提出できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての児童が学年相応の漢字の読み書き、基礎的な計算をすることができる。</li> <li>語彙を増やし、文章を読んで正しく理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元末評価や定着確認テストでの「言語事項」や「計算の技能」の内容についての正答率を80%以上にする。</li> <li>宿題の提出率が95%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出の漢字や言葉の意味を調べたり、使ったりする学習を国語科で単元ごとに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語以外の教科で学習した漢字も使うように指導した。</li> <li>隙間の時間を活用して学習プリントを行った。</li> <li>基礎学力定着に必要な児童の検討を行い、TTや取り出しで支援をした。</li> <li>全校読書で取り組みの優秀な学年を表彰した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元末評価や定着確認テストでの「言語事項」や「計算の技能」の内容についての正答率は87%であった。</li> <li>宿題の提出率は90%であった。</li> <li>支援が必要な児童に個別指導を行う時間を確保した。</li> <li>全ての学年がチャイムと同時に読書に取り組めた。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習準備が整っていない児童が見られる。</li> <li>児童間で各教科での理解度に格差が見られる。</li> <li>長文の内容を把握する力が弱い。</li> <li>自分の考えを説明したり、書いたりする力が弱い。</li> <li>速く正確に計算する力が弱い。</li> </ul>	<p><b>具体的方策(教員の取組)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機会がある度に辞書を引く経験を積ませる。</li> <li>朝の活動を学力向上の時間として、週に1回以上、個に応じた漢字・計算のプリントに取り組む。</li> <li>週に1回、全校読書に取り組む。</li> </ul>	<p><b>取組指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新出の漢字や言葉の意味を調べたり、使ったりする学習を国語科で毎週行う。</li> <li>朝活で学力向上を、週4回取り組む。</li> </ul>		<p><b>評価</b></p> <p><b>B</b></p> <p><b>次年度における改善事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語知識に乏しく、また関心も薄いため、言語の意味理解や活用が十分できているとは言えない。積極的に辞書の活用ができるよう環境を整え、調べる活動を設定する。また、児童の興味関心を促す指導を常時行う。</li> <li>今年度作成した「漢字道場」に取り組み、学習した漢字の定着を図る。</li> <li>年に2回、全校読書に取り組み、優秀な学年を表彰する。</li> </ul>	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p><b>よさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの活動では、進んで意見を出したりホワイトボードにまとめたりしようとする児童が多い。</li> <li>発表をしようとする意欲は高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話や長文の要点を自分の意見と照らし合わせて考え、筋道を立てて自分の考えを簡潔にまとめることができる。</li> <li>自分の考えを話すことや書くことで相手に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元末評価や定着確認テストでの「読む・書く」や「数学的な思考」についての正答率を80%以上にする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年を中心に読解力や思考力の評価を中心とした問題に取り組んだ。</li> <li>「応神小学習モデル」を基に全校で統一した指導を行い、言語活動を重視した授業を展開した。</li> <li>学習ノートや自主学習のよい見本を学級で提示した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元末評価や定着確認テストでの「読む・書く」や「数学的な思考」の内容についての正答率は81%であった。</li> <li>グループで話し合いの場を持ち、意見交換する機会が増えた。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞いた内容を理解し、表現する力が弱い。</li> <li>長文の要点を読み取り、まとめる力が弱い。</li> <li>知識を関連づけて、課題解決に対して思考・判断・表現する力が弱い。</li> </ul>	<p><b>具体的方策(教員の取組)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞く、読む、話す活動の中で、要点をまとめる活動を各教科に積極的に取り入れる。</li> <li>聞き取りワークシート等を活用して聞く力の定着を図る。</li> <li>ノートの書き方モデルを提示し、工夫できようノート指導を繰り返す。</li> </ul>	<p><b>取組指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月1回程度、読み取りプリント等に取り組む。</li> <li>月1回ノートの点検を行う。</li> </ul>		<p><b>評価</b></p> <p><b>B</b></p> <p><b>次年度における改善事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学習モデル」をもとに、自力解決や意見交換の時間を毎日の授業展開に設定する。その中で、詳しい説明や理由を付けて話せるようにする。</li> <li>家庭学習についてよい取り組みを提示し、意欲を高める場を設定する。</li> <li>聞き取りワークシート等を活用して聞く力の定着を図る。</li> </ul>	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p><b>よさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心の高い内容については、熱心に取り組むことができる。</li> <li>平日、宿題以外の家庭学習に取り組む児童も多く見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の興味関心のある内容について、進んで家庭学習をすることができる。</li> <li>自分の知識を豊かにし、考えを深めるために様々な分野での読書を進んで行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の家庭学習に取り組む割合を70%以上に、休日の家庭学習に取り組む割合を50%以上にする。</li> <li>読書冊数を前年度より5ポイント向上させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の手引きに応じた取り組みを定期的呼びかけた。</li> <li>読書の時間を週1回確保し、読書記録を提出させた。</li> <li>全校でチャイム着席の取り組みを行い、優秀な学級を表彰した。</li> <li>学年ごとに学習に必要な学習用具を検討し、持ち物の統一を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の家庭学習に取り組んだ児童は83%、休日に取り組んだ児童は74%であった。</li> <li>読書冊数は昨年と同様であった。</li> <li>89%の学級がチャイムと同時に全員着席ができた。</li> <li>きちんと学習用具を準備できている児童がふえた。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休日に家庭学習をしない、または時間が短い児童が多い。</li> <li>知的好奇心を持ち、自ら学ぼうとする意欲が乏しい。</li> <li>文字の大きな挿絵の多い書物を好み傾向があり、読書量も少ない。</li> </ul>	<p><b>具体的方策(教員の取組)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の手引きを配布し、家庭での読書や自主学習の習慣化をめざす。</li> <li>家庭との連携を図り、家庭学習の自己点検表を毎学期行う。</li> <li>読書の時間を確保し、読書記録を活用する。</li> </ul>	<p><b>取組指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の手引きの活用を学期に1回呼びかけ、休日の家庭学習に取り組ませる。</li> <li>読書の時間を週30分以上確保し、読書の記録をつけ、月1回提出する。</li> </ul>		<p><b>評価</b></p> <p><b>B</b></p> <p><b>次年度における改善事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習における「応神小家庭学習モデル」の確立に取り組む。</li> <li>読書記録の活用法や内容について検討する。</li> <li>年に2回、全校でチャイム着席に取り組み、優秀な学年を表彰する。</li> </ul>	

平成29年度 学力向上ロードマップ

